

黒豆の里・むらおこしプロジェクト

和歌山県那賀振興局農業振興課

○農業体験と連携した黒豆のPR

平成18年度から紀の川市鞆渕地区の特産品の一つである黒大豆のブランド化に向けた地域の取り組みに、県単独事業を活用しながら支援してきました。黒大豆の生産性向上を目的とした実証ほを設置するなど生産対策支援を行うとともに、販売面では商標取得への支援を行い、「がんこ農家」の名称で黒豆と黒豆の加工品など3区分で商標権を取得するに至りました。また、農業体験イベントは内容の提案等を行い、農業者が主体となって植え付け、黒枝豆収穫、黒大豆収穫の3回開催し、多数の参加者を受け入れることができ、鞆渕の黒豆を広くPRすることができました。



黒豆収穫体験

○黒豆で産地を活性化

紀の川市鞆渕地区では、標高300～400mの立地条件を活用し、30年前から黒大豆を生産しており、現在50戸、約7.5haで12t程度生産されています。

以前は、農家自身販売方法がわからず、主産地の1/3程度の安い価格で買い付け業者に販売を行っていましたが、農家所得の向上と産地活性化を図るため、今後の生産や適正販売についてブランド化も検討しながら取り組みを行いました。

○生産対策から販路開拓まで

ともぶち地域活性化実行委員会と連携をとり、19年度からは市・農協・振興局と生産者・商工関係者等で構成される那賀ブランド作り協議会の協力も得て、黒豆の産地化に支援してきました。生産面では、有機質資材の投入による連作障害対策試験、根粒菌添加育苗による生育促進効果試験等の実証ほを設置するなどして、生産性向上に向けた取り組みを支援しました。販路の開拓では、これまでの和菓子メーカーとの連携に加え、洋菓子への利用拡大や郵便局のふるさと小包（黒豆）など取引先を5カ所に広げることができました。また、20年度は5月（端午の節句）、9月（黒豆の日）、12月（正月用）の3回、JAの直売所において試食、PR活動を実施し、消費者への認知を深めることができました。

今後は、これまでの黒豆の活動を基盤に、その他のがんこ農家シリーズの発掘とPRに取り組むとともに、中山間地域鞆渕のむらおこしも含めた取り組みを支援していきます。



96（クロ）豆の日試食宣伝



ふるさと小包